

リサイクルについて講演 **大牟田**

福祉現場からできる環境保全



紙おむつリサイクルについて話す長社長

大牟田市のレディースネットワークは十日、公開講座を開催し、約二十人が参加。同市健康老荘に施設を有する紙おむつリサイクル事業者、トータルケア・システムの長武志社長が資源循環型社会について講演し、医療、福祉の現場からできる環境保全について解説した。

同社は介護などで出される使用済み紙おむつを、ごみではなく資源として分離、回収し、建築資材などに再生する事業を実施。講座では長社長が、リサイクルの仕組みや目標とする環境保全システムについて話をした。

長社長は「二〇〇九年に国内で生産された紙おむつの枚数は百二十八億枚に上り、高齢化の影響で大人用おむつの生産量が年々増加している」と指摘。伐採による森林の減少、焼却処分によるCO₂(二酸化炭素)排出量の増加を防ぐため、リサイクルによる資源の循環が必要と訴えた。

「製造、販売と収集、処理をつなげるのが資源循環型社会。最終目標は紙おむつをリサイクルした再生紙おむつを商品化すること」と長社長。楽しい介護実現へ向けての取り組みなども紹介され、参加者たちは熱心に聞き入っていた。(小田 智子)